



2021・6・1

第 411 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

いま譲れない！草の根のせめぎあい

野党共闘さらなる前進めざし

【さいたま市緑区／九条の会緑区連絡会】

5月15日、「日本国憲法は希望—市民と野党の共同をさらに前へ 政権交代で9条改憲に終止符を！」をテーマに12回目の「2021輝け九条！緑区文化の集い」を開きました（主催：九条の会緑区連絡会・後援：戦争法廃止オール緑区の会）。

去年は、コロナ禍でやむなく中止、2年越しの開催で、「待ってました」とばかりに、入場制限（収容数の約3分の1）・検温・消毒・マスク・入退場時の混雑緩和などコロナ対策万全の会場に135名が参加しました。

講師は若い弁護士・白神優理子さん。「日本国憲法こそ希望」と題して、「高校生平和ゼミナール」の活動を原点とする自らの日本国憲法への思いを熱く、わかりやすく語ってくれました。参加者からは「久しぶりに高校生に戻って授業を受けている気分でした。」との声も聞かれ、元気あふれる白神さんにパワーをもらいました。

文化行事は川口市出身の世界的アコーディオン奏者・柴崎和圭さんの演奏。初めて

台湾海峡有事論の行き着く先は？

台湾海峡における軍事的緊張に日本に関与することをめぐる論調がエスカレートしています。この問題は4月の日米首脳会談で表面化しましたが、今年度の『防衛白書』にも登場。『白書』の公表は7月の予定ですが、防衛省は自民党国防部会などに素案を示し、事前の根回しを行っていることから、一部マスコミにも紹介されています。

そこでは日米会談同様、中国による台湾周辺で軍事的圧力を強調し、それが「わが国の安全保障や国際社会の安定」にとって重要との規定を始めておこなっています。

米中の緊張激化をそのまま日本の安全保障と結びつけるこの論議は、日米同盟の地球規模化をさらに定着させようとするものにほかなりません。

アコーディオンの持つ奥深さに触れた聴衆も、しばしその軽快な、また哀愁に満ちた多彩な音色に酔いしれました。

今回初めて立憲民主党・日本共産党・社民党、そして「九条俳句訴訟」で奮闘され

た前島ひでお市長候補からの連帯メッセージも紹介され、来るべき衆院選に向けて、市民と野党の共同をさらに前へ進める重要な一歩になりました。

チケット普及は、前回（2019年）実績を超え、約350名の方々の協力を頂きました。

コロナが心配で会場に来られなかった方も大勢いましたので、チケット購入者にはお礼の文書、ユーチューブ配信やDVD制作などを届けることを計画しています。

（九条の会緑区連絡会事務局 大石一之）

迷ったけど反響の良さに安堵

【愛知県尾張旭市／九条の会・尾張旭】

5月29日の午後、15周年のつどいを開きました。緊急事態宣言が出されている中でしたが、“1年以上前から準備してきたこと。感染防止策をしっかりとって、実施しよう”と決め、開催することにしました。

プログラムは、挨拶・ミュージックベル演奏・雨宮処凛さんとの対談方式の講演「誰もが生きやすい新しい社会を！」・質疑応答・挨拶と進みました。

雨宮さんと対談したのは、高校の教員・学生青年センター職員。司会者を含め、4名でした。雨宮さんは、支援活動の様子や若者の心の叫びをDVDを流して紹介されることもありました。

参加者は、約230名。会終了後、アンケートを書いていた方が54名でした。開催については、「こういう中で会を開かれた英断・ご苦労に敬意を表します」「コロナの厳しい状況の中、よくこの会を開いてくれました。大いに刺激を受けました」と言っていました。

講演については、「第一線で活動している方のお話が聞けて勉強になりました。自分も、目の前の人に想像力をもって接する心の余裕を持ちたいと思います」「このままではいけないと改めて思った。助け合い、頼りあって生きていく大切さを痛感しました」「エキタスというグループの女性のスピーチは、とても響きました。自分の子どもが40代で、就職氷河期だったので今だに結婚できないでいるのですが、その苦しみがよく分かったような気がします」「自分自身の姿勢を突き付けられる気がしました」。高校生からは、「自分の知らない世界をたくさん知ることができ、とても勉強になりました。全ての人が暮らしやすい、同等の機会を得られる世の中になればと思います」というような感想が寄せられました。

迷ったけど、無事開催出来てホッとしています。（九条の会・尾張旭 城山喜男）

オリンピック開催中止が多数

【奈良県広陵町／広陵9条の会】（1）広陵9条の会は、5月19日、毎月恒例の19日行動を、エコールマミ（商業施設）2階通路で、午後4時集合～4時45分までおこないました、8人が参加、県会議員の今井美津子さんも参加しました。コロナの感染拡大が収まらず、みなさんの不安が大きいことも考慮して、ビラ配布と署名行動はやめ、横断幕とアピールボードによるスタンディング宣伝とマイク宣伝を行いました。

世話人会メンバーと今井県議がマイクを握ってコロナ感染対策、高齢者医療費2倍化、国民投票法改定と改憲問題、日米首脳会談共同声明と大軍拡問題を訴えました。

オリンピック・パラリンピック開催についてのシール投票には 34 人が参加。結果は・中止すべきは 21 人 ・延期すべき 5 人 ・開催すべき 1 人 ・わからない 5 人。

(2) 「改憲発議に反対する全国緊急署名」は 5 月末、500 筆目標で取り組んでいますが、現在の到達は 490 筆になっています。

(3) 広陵 9 条の会 4 本目の大看板 (90 c m × 180 c m) を古寺区入り口交差点に設置しました。(九条の会奈良県ネットワーク)

【大阪府泉南市／泉南市九条の会】 泉南市九条の会は 19 日、戦争法が強行されて以来続けているスタンディングを JR 和泉砂川駅で実施し、16 人が参加。時折霧雨が降るなか、「9 条改憲 NO!」「なくそう核兵器」「戦争法廃止」のプラカードやのぼり、横断幕をかかげ、通行する車やスーパーに買い物に来る人、駅を利用する人にサイレントスタンディングでアピールしました。

サイレントデモでも迫力

【和歌山県／憲法九条を守る和歌山弁護士会】 生憎の雨天の 5 月 12 日、83 回ランチタイムデモ(呼びかけ:「憲法 9 条を守る和歌山弁護士の会」)、60 名の市民が参加。

コロナ禍の中、サイレントデモとされましたが、それはそれで「無言の迫力」というものがあつたかもしれません。

コール役(デモ中はコールなしですが)は丸山哲弁護士でした。今回は「憲法九条を守るわかやま県民の会」の写真コンテストで贈られた「のぼり」が初登場しました。

参加者は和歌山城西の丸広場から京橋プロムナードまで、「9 条守れ」などを訴え(サイレントで)行進しました。

(「九条の会・わかやま」426)

会の活性化に世代交代が課題

【埼玉県富士見市／富士見九条の会】

富士見市は 72 年から 88 年までの革新施政のなかで、87 年には平和都市宣言をおこないピースフェスティバルを現在まで継続しています。

こうした動きがあつて、2004 年の「九条の会」のアピールに応じて、「富士見九条の会」を結成できた、と考えます。そして、毎年 5 月 3 日の憲法記念日には、会発足以来、『憲法のつどい』を開催しています。昨年はコロナ感染拡大のため中止せざるを得ませんでした。昨年、講演をお願いした渡辺治先生と弦楽合奏のメンバーをお招きして、私たちは出来る限りの注意を払って 5 月 16 日に開催、100 余名が集いました。

渡辺先生の講演は「菅政権と改憲の新段階—市民の力で改憲に終止符を」と題するもので、4 月の日米首脳会談で合意した声明の内容、5 月 11 日の衆議院本会議で〈憲法改正国民投票改正案〉の可決といった新たな状況をリンクさせた深い分析でした。

アンケート回答には「いつも時宜にかなった内容で勉強になります」「台湾をめぐる緊張、東アジアで果たすべき日本の役割、平和を守る力関係などマスコミ報道では知ることのできない問題を学びました」といった感想が寄せられました。

現在、私たちがコロナ禍でも、毎月 9 日の駅頭宣伝〈9 日行動〉をおこない、毎月第 3 水曜日発行の会報・九条ニュースは 5 月で 184 号になります。また、会員間では、改憲や平和をめぐる状況について認識を新たに

したいと、適宜〈小学習会〉実施。

改憲をめぐる状況の急展開の中で、地域で改憲反対の世論をつくるのに、会がよりアクティブであるためには、会員や運営委員の世代交代も図らなければなりません。先輩たちが残したものを継承しつつも、それにとらわれることなく、新たな活動をどのように作り出していくか、それが私たちの課題だと強く感じています。

地域の運動を定期的に交流

【東京都足立区／9条の会足立連絡会】

9条の会足立連絡会は、区内約20ほどの地域・職域9条の会が、互いの活動を交流し、励まし合うことを目的に、毎月1回の連絡会を開いています。各会とも、高齢化などの悩みを抱えながらも、様々なイベントや、地域の民主的な組織との共同の駅頭活動に取り組むなど、それぞれ、工夫し特徴を活かした活動を続けています。

連絡会としての主な共同の行動としては、つぎのようなものに取り組んでいます。

①アベ・スガ改憲を許さない署名活動は、当初、「教職員9条の会」が「足立退職教職員の会」や都教組足立支部と協力しながら取り組んできました。改憲反対の統一署名を現職や退職教職員、地域にどう広げるか考え、教職員組合や退職教職員の会の送付資料に署名簿を同封させてもらったり、区内に多い都営住宅団地に月に1回程度、各戸に署名簿と説明のチラシを配布し、1～2週間後に戸別訪問をして直接対話し署名をお願いするというスタイルで行ってきました。これを、都営団地が存在する地域の9条の会と連携して取り組みました。

1ヵ所に数百名の署名簿とチラシを配布し、数十筆の署名が集まりました。コロナウイルス感染拡大の中で、戸別訪問・対話が難しくなっても行動を止めることはできないと、足立連絡会独自の受取人払いハガキ形式の署名簿を作成し、チラシとともに配布しました。直接対話ができなかった時と比べると署名数は激減してしまいましたが、必ず1～2通の返信があり、チラシが読まれていると実感することができました。

②「足立不戦のつどい」の取り組みは、8月15日前後には足立区内でも戦争についての様々な取り組みがあるのに、日本がアメリカに戦争を仕掛けた12月8日には区内の取り組みが何もないということから、2016年12月8日に開戦75周年を「記念」した取り組みを行おうと、9条の会を中心に労働組合・民主団体・平和団体・個人からなる実行委員会を立ちあげ、開始した取り組みです。

第1回は「東京大空襲」、第2回は「日本はなぜ無謀な戦争に突入したか」、第3回は「原発と軍拡」、第4回は「国のために死ぬのは美しい?」、第5回は「戦争と子どもたち」などと、戦争・原発・人権などについての講演・学習活動を行ってきました。

コロナ禍で、会場使用制限が行われるなどの困難もありますが、今年も準備中です。(9条の会足立連絡会・五十嵐良太 九条の会東京連絡会「生き生き憲法」73要旨)

【訂正とお詫び】「ニュース」前号の東戸塚9条の会の記事で、ニュースの発行は「今月で17年」は「今月で187号」の誤りでした。お詫びし訂正します。(編集担当)